国際交流基金助成事業報告書

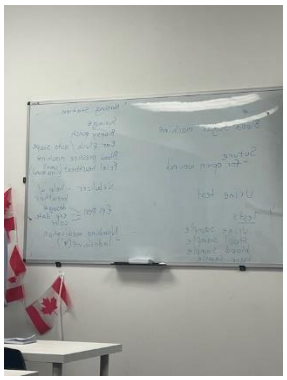
薬学部　1年次生　　安尾　美沙紀

1　はじめに

本学の国際交流基金の助成を受けて 2023 年 8 月 21 日から 28 日までの期間カナダのバンクーバーにて、医療英語レッスンと医療施設見学を行うサマープログラムに参加しましたのでご報告いたします。

2　医療英語レッスン

バンクーバー到着の翌日からバンクーバーを出発する前日まで、私たちはバンクーバーの Cornerstone International Community College of Canada (CICCC)に通いました。クラスでは医療に関する英語を学びました。このプログラムに参加した 10 人のクラスは、現地の先生 1 人が担任になって教えてくださいました。医療単語についての授業だけでなく、ロールプレイ学習も行い、とても楽しく興味深い授業に取り組むことが出来ました。しかし、症状や病名、薬の名前などは聞き慣れない単語が多かったです。また、使われている文法は私がこれまで習ってきたものだったので、落ち着いて授業に挑めました。



3　医療施設見学

午後からは、現地の先生の引率で、医療施設を見学しました。日本の医療と違うなと衝撃を受けたことがたくさんありました。特に私が衝撃を受けたことは、カナダの人は何か症状が出たら専門医にかかるのではなく、まず総合病院で診察してもらい、そこで専門医を紹介してもらうという仕組みであることです。また、薬剤師が注射を打てるという点も日本との違いに驚きました。さらに、ゲストスピーカーである、カナダで働いておられる日本人薬剤師さんの話は私の将来の選択肢を広げるものでした。日本からカナダに移り、仕事をするよ

うになった経緯や、カナダと日本の働き方、収入、社会的地位の違いなどを分かりやすく説明していただきました。とても興味深く、話が聞けて良かったです。

4　ホームステイ

私はノースバンクーバーに住むご家族にお世話になりました。初めての海外、ホームステイでお風呂やご飯、コミュニケーションに不安がありましたが、迎えてくださったホームマザーによってそんな不安は吹き飛びました。また、とても人懐っこい 2 歳の女の子がいて馴れない生活の中で癒されました。フィリピン系のご家庭であったので、フィリピン料理をいただくことが出来ました。昼食はホストファザーがランチを作って持たせてくださり、とても美味しくいただきました。学校からホームステイ先に帰ると、「今日の学校どうだった？」や、「明日はどこか遊びに行くの？」と気軽に話しかけてくださり、最初のころは焦っていましたが、最終日に近づくにつれて焦らずコミュニケーションが取れるようになりました。最終日の前日には、ホストファザーと庭でお話しさせていただく機会があり、とても良い経験になりました。

5　まとめ

私は渡航前、このプログラムでの目標を３つ立てていました。語学力を向上させること、行動力を高めること、海外の医療を知り、私の将来の選択肢を増やすことです。

１つ目の語学力の向上については、ホームステイ先のホストファミリーや CICCC の先生とのコミュニケーションで実感することが出来ました。分からないことは調べて、実践する

というサイクルがホームステイのおかげで簡単に実践することが出来ました。このバンクーバーサマープログラムが 1 週間という短い期間だったため飛躍的な語学力の向上は感じられなかったのですが、英語を話すしかないという状況でなんとか 1 週間乗り切ることが出来ました。

2 つ目の行動力を高めることについては、海外渡航プログラムに 1 年生のうちに参加することを決心し、参加出来たことです。また、渡航先では積極的にホストファミリーとコミュニケーションをとることが出来ました。

3 つ目の海外の医療を知り、将来の選択肢を増やすについては、バンクーバーでの薬局、病院見学、現地の薬剤師、医師、看護師の話から日本とは医療の仕組みが全く違うことを知りました。私の将来は、これからの薬学部での 6 年間でじっくり考えたいと思います。